

会 議 録

名 称	平成26年度第1回市川市高齢者福祉専門分科会	
議題及び議題毎の公開・非公開の別 ※非公開の場合は公文書公開条例第8条の項号を記載する	1 福祉・介護に関する市民意向調査の結果について（公開） 2 その他（公開）	
開催日時場所	平成26年5月14日（水）午後2時30分～午後4時 市役所3階 第5委員会室	
出席者	委員	藤野委員、伊藤委員、高田委員、田上委員、塚越委員、戸村委員、 知久委員 （欠席者 松丸委員）
	事務局 （所管課）	福祉部高齢者支援課
	関係課等	高齢者支援課、地域福祉支援課、介護保険課
傍聴区分	○可（0人）・不可	
会議の概要	※詳細別紙	
配付資料	≪配付資料≫ ・会議次第 【参考資料】 ・福祉・介護に関する市民意向調査結果報告書（平成26年3月） ・平成25年度 特別養護老人ホーム入所希望者実態調査 調査結果	
特記事項		

様式第6号別紙

平成26年度第1回市川市高齢者福祉専門分科会会議録（詳細）

- 1 開催日時：平成26年5月14日（水）午後2時30分～午後4時
- 2 場 所：市役所3階 第5委員会室
- 3 出席者：藤野委員、伊藤委員、高田委員、田上委員、塚越委員、戸村委員、知久委員
（欠席者 松丸委員）
市川市 鹿倉信一（高齢者支援課長）、野口栄一（地域福祉支援課長）、
吉見茂樹（介護保険課長）、他担当課職員
- 4 議 事：（1）福祉・介護に関する市民意向調査の結果について
（2）その他

《 配付資料 》

- ・ 会議次第

【参考資料】

- ・ 福祉・介護に関する市民意向調査結果報告書（平成26年3月）
- ・ 平成25年度 特別養護老人ホーム入所希望者実態調査 調査結果

【午後2時30分開会】

(事務局より配布資料の確認)

1 福祉・介護に関する市民意向調査の結果について

藤野会長： 開会宣言
会議次第1についての報告を事務局からお願いします。

(事務局から、参考資料「福祉・介護に関する市民意向調査結果報告書」に基づき説明)

藤野会長： ただいまの説明につきまして、ご質問等ございますか。
では、私から一つよろしいでしょうか、これから、どういう形で分析を考えていらっしゃるのか、例えば、負担の部分と何かを絡めていくなど色々なことが考えられると思いますが、そのあたりはどういう風に考えていますか。

事務局： 分析の中で、例えば、圏域については、北部はひとり暮らしが少ないなどの傾向も見えています。必要なクロスは常にやりながら分析をしていきたいと考えています。

藤野会長： いま、先生方から、こういうところを見てもらいたいという必要な意見をもらいますか？ それとも全体をクロスにかけてしまうのですか。相当膨大な量になるので。

事務局： 必要に応じて。実際には私たちもこれから見て行きますし、委託業者も入りながら計画を作っていくので、そういった目線で見ながらやっていきたいと思っています。委員の皆様には、こういったクロスをみてもらいたいなどの意見をいただければ、そういうデータも提供させていただきたいと思っています。

伊藤副会長： この段階での大きな動向や市川市の特性について掴んでいるものがあつたら、教えてもらいたいと思います。

事務局： これから、その辺りの分析をやっていきたいと思っています。

戸村委員： たいへんいろいろとデータを揃えていただいているのですが、これからの、分析の目的、どういうことを分析いくのか。例えば、在宅医療サービスを知らない現状があるなら、こういう方に対して、どういう施策をするのか。

事務局： 戸村委員のおっしゃる通り、分析の中で見えてくる課題を、どう次期計画に反映していくかという点で活用していきたいと思っています。

戸村委員： ただ、介護財政が厳しい中で、こういうデータを取って、在宅サービスを推進していても、これまた大変なことになりますよね。逆に言えば、そういう方をなるべく介護を利用しないように仕向ける、そっちの方が大切なのではないかという気はします。その辺りは、いかがなのでしょう。

事務局： 今の段階では、アンケートを集計しただけですので、これから課題を見つけて、それに対して皆様からご意見があれば、あわせて検討していきたいと思っています。

田上委員： 戸村委員さんに、関連したことなのですが、介護や医療の財政負担の軽減をどのようにすればいいのか、ということが課題の一つとして出てくると思うんですね。

シルバー人材センターの場合には高齢者が会員ですが、生きがいと同時に健康保持が大きな役割の一つなんです。結果として、シルバー人材センターは、医療や介護の財政負担の軽減に、国レベル517億円寄与していると言われていたんですね。

今後の課題の一つとして、市がシルバー人材センターなどを活用、連携し、施策の一環として整備していくということが大事なのかなと思いました。

戸村委員： 要はこのデータを分析して、最終的には市川市の福祉計画に盛り込んで行くわけですね。その中でどういう方向で持って行くかという方針的なものが出てこない。先ほど言いましたように、在宅サービスを知らない人にどんどん勧めてね、費用ばかり増やしてもしょうがない。我々は民生委員として友愛訪問等をやっておりますけれど、非常に核家族化が進んでいましてね、独居の方が非常に多いんですよ。民生委員を頼りにしているという状況があるんです。そういう中で、どのように福祉計画にこのデータを盛り込んでいくか、筋道が一本立たないと、進め方が非常に難しいんじゃないかという気がするんですけどね。事務局： 基本的に大きな方向性としては、今回の計画については2025年を見据えた計画にしてくださいと国からも示されています。その中でも中心となっているのが、地域で介護や医療機関も含めてやっていくような地域包括ケアシステムです。そのための第一歩として、スタートしてくださいという視点は、計画の中にも当然入ってきます。

藤野会長： 地域包括ケアシステムを、どうこれからやっていくかという国の方策に合わせていく、そのためには、調査結果を見るといろんな情報を知らないという方も多く、在宅でできるはずなのに、情報を知らないために不安になって施設利用等を導いてしまう可能性があったりします。これまではユニットケアでしたが、調査結果を見ますと、4人部屋が良いという意見も実際出ていたり、これは恐らく、負担の問題等も絡んでいるのかなと思います。最後に今年度までの実績です。どういう風にやられていて、その結果がどうだったのかということを見据えて、総合的に今後について判断すべきかなという風に思っています。国の方策としてはできるだけ在宅でやった方が、高齢者にとっても全体的なお金の使い方としても、ある意味効率的にやれるというような考え方でやっていかれていますので、その辺りを上手く行くための方策をどう考えて行くべきか。ただ、地域包括ケアも難しい部分はたくさんありますので、今後の課題だと思います。

知久委員： すごく興味深く、調査結果を見ました。お年寄りの方は、ひとり暮らしの方が多いのかなという先入観があったのですが、15ページの調査結果を見ると、家族と同居という方が大半を占めている。数字で見ないと分からないことがたくさんあるのだなと思いました。分からなかった点は、30ページの年金の種類について、国民年金、厚生年金、企業年金の有無が挙げられていますが、例えば、20代30代は会社で働いていたけれど、そのあと旦那さんの扶養に入って、第3号になっている女性の方というのは、この中でいうとどこに入るんですか。国民年金というと、二十歳のときからずっと国民保険という方もいらっしゃると思うんですけど、会社で働いて辞めた後、国民年金になったり、結構ミックスな方が多いのかなと思うのですが。

地域福祉支援課長： 回答者の方がどう答えたかは分かりませんが、通常、今のような話ですと、厚生

年金で答えられたと思います。国民年金は基礎年金でみんな持ってますから、その上に、働かれた方は厚生年金、それプラス企業年金があれば企業年金。その中に働かれていて、第3号になられて、主婦で国民年金に入られた方もいらっしゃいますよね。

知久委員： そうすると、思っていたよりも、国民年金だけの方っていうのは結構多いのですね。勉強になりました。

藤野会長： 家族構成についてですが、ひとり暮らしと言うのは高齢者一人だと思いましたが、家族など同居というのは配偶者も含んでいますよね。これは高齢者夫婦の二人暮らしなのか、子供世代などとの同居なのか、分けて分析することは出来ますか。

要は、誰か若い介護者がちゃんと一緒にいて見ているケースと、老夫婦だけで老老介護認認介護になっているケースでは意味が違ってくるような気がするのです。

同居者ですよ、その辺りを分析して、高齢者と配偶者だけ、もしくは、高齢者だけで生活している人の状況と、それ以外の家族がいる人の状況の違いみたいなものが見えると面白いかなと。

地域福祉支援課長： 居宅サービス利用者の同居人数は「2人」が41%です。同居者の内訳を見ますと、配偶者の割合が半数ありますから、他の家族が含まれている可能性を考慮しても、配偶者だけの二人暮らしの割合は高いのではないのでしょうか。藤野会長： その辺り、業者に依頼してクロス分析を行えば、高齢者だけの世帯と、それ以外の家族がいるところと分析ができるのではないのでしょうか。高齢者だけの世帯には、普通のところとは異なる支援が必要かなと思っているので。

地域福祉支援課長： 同居者の割合は、どなたですかというのは聞いているので、おおまかですがそこから拾うのはどうでしょうか。

塚越委員： 私を含めてなんですが、いざ自分の身にかかってきたときにはじめて介護保険だったり支援センターだったり勉強し始めるのかなと思うんですね。アンケートを見ますと地域包括支援センターを知らない、在宅介護支援センターを知らないという階層が高いパーセントを占めている。自由意見を見たときに、もしこのシステムを知っていたら解決できるのではといったことが多々出てきていますね。ですから市の方はとてもいいことをしていらっしゃるんですけど、市民に知れ渡っていないというのが現実にあるのではないかと思います。ここの部分でもう少しPRを何らかの方法でしていただいたら、もう少し解決できる部分、不安に思っている部分が解決できることが多くなってくるんじゃないかなと感じました。

藤野会長： 恐らく高齢者一般と二次予防対象者辺りの段階から周知して、いろんな活動に社会参加していただくようなことに取り組んで行くことも必要なのかなと思います。

今の段階では、これからどう分析するかというところでございますので、皆さん方にまた見ていただいて、こういうところはというのは事務局に送っていただいて、今後分析する中での参考資料として業者の方にもお願いしていただきたいなと思います。

全体的な、市川市の高齢化の他の地域と比較しての特徴はないのでしょうか。 それによって、市川独自に何か取り組まなければいけないものがないのかですね。

地域福祉支援課長： いまその方法ってなかなかないのですよね。「見える化」によって、比べられるようになるといわれていますが、全部が全部載ってくるかどうかというのは分から

ない。調査でも同じ項目を同じようにやらないといけないので、同じところについてはできるかなと思いますが。

戸村委員： 昨日のテレビで、横浜市だったか、デイサービスで要支援の卒業生というのをやっていた。要するに、介護保険からデイサービスで、いろんな体操などをやって、要支援を外れた方に卒業証書を渡して、要支援者を減らしていく。そういうシステムみたいなものを取り入れるとかね。

地域福祉支援課長： そうようなデイから予防の人が、介護保険のサービスではなくて、地域のサロンとかっていうのは、どこの市でも多分いまはやっていると思います。ただ、卒業と言うキーワードで工夫されているとは思いますが。

戸村委員： ちゃんと卒業証書を渡しているんですよ。要支援を受けた人が、自宅で自立できるところまで、リハビリをやって、卒業される。そういう制度みたいですよ。

一番いいのは年金で入れるような施設がたくさんできることですね。待機が非常に多いでしょ。民間のやつはとて入れませんよね高齢者世帯でも二人いればなんとか生活できたのが、配偶者が亡くなって要支援になったら、金銭的にも厳しい。我々、独居の方見てますけど、そういう方は、生活保護の方に比べて大変ですよ。生保の若い方は家賃を払ってもら。一番何が問題かと言うと、医療費が無料なんです。ところが独居で老人でもってひとり暮らしの人だと、医療費を払わないといけないんですよ。どうしても生保に行っちゃいますね。その制度を見直さない限り、難しいんじゃないかな。財源厳しい折に、どうしたらいいのかというのをなんとかデータから導けるといいと思うんですが。

地域福祉支援課長： いま言われたところは国の制度なので、計画では入れられませんけども、一人で生活される方で、知っていれば場合によってはいろんな支援を受けられた場合っていうのもあると思います。その点で、できるだけ在宅で生活できれば、できれば生活保護でなくっていうのは、入れていければいいと思います。

藤野会長： それでは、こちらの調査報告書をもとにご意見を入れていただいて、それをもとに分析をと思いますが、いつまでに連絡すればいいですか。

事務局： 次回、7月16日の第2回社会福祉審議会場で分析については報告させていただきますので、できましたら6月の中旬くらいまでにご連絡下さい。

藤野会長： では6月の中旬くらいまでに事務局の方に、いろいろなご意見を言っていただければ。

それではもう一つが、特別養護老人ホーム入所希望者実態調査についてです。事務局の方より、ご説明お願いいたします。

(介護保険課から、参考資料「平成25年度 特別養護老人ホーム入所希望者実態調査 調査結果」に基づき説明)

藤野会長： ただ今のご説明に対して、ご質問等ございますか。これ、同じ方は外しているんですよ。重複はされてない？

介護保険課長： 各老人ホームに申しこんでいる方で、重複されている方は名寄せをしたり、省いたりしております。

藤野会長： 3年以上待っている方が23%もいるんですか。

高田委員： 実人数の積算は大変だったと思います。複数の方が複数の施設の方に申し込むということが往々にしてございますので、869人出されたということは、その時点での実態なのかなと思います。ただ、5年10年くらい前を考えていくと、当時の特別養護老人ホームか老健かという二者選択のような画一化から、多様な生活住まいが出てくるなか、申し込み者の利用の意識も変わってくるのかなと考えています。ですから、入所は介護に困っている方から順々ということになるのですが、必ずしも上位の方が、すぐに入所というわけにはいかないところがあったり、最近では老人保健施設も長期化の傾向がございますので、すぐ退所というわけにはいかないケースも増えています。グループホームもかなり重介護度の方もみられるようになったということで、だいぶ様が変わってきたのかなという印象があります。実態調査とアンケート調査の分析を踏まえて、今後のビジョンを、このあと皆さんと意見交換できたらなと思っています。

藤野委員： 申し込みをされている方は、順番になったら、すぐ来られますか？ それとも、今グループホームに入っているからしばらくいいですか。

高田委員： そうですね、うちの法人では欠員が出ると、少なくとも14日以内に入居できるような仕組みをつくって、空席にならないようにすぐに声をかけていくわけなんですけども、なかなかすぐ入居というわけにはいかないようです。また今後、特養の入所基準が要介護度3以上の、その辺りの動きと実態調査の動きをみて、市川市として整備計画をどういう形で進めていけばいいのか、意見交換できたらなと思っています。

藤野会長： もう一つ教えていただきたいのは、実際にはいろんな所を申し込みされている方というのは、トータルで何人くらいいらっしゃるんですか。いま国が50万人の待機者とか言っていますよね。実際には、重複もあるので10万人くらいじゃないかなと思うんですけど、お分かりであれば。

介護保険課長： 名寄せをして869人なので、トータルで見ると2千人以上の方が申し込まれています。

高田委員： うちの方はだいたい、多床室で5、6百人くらいですかね。ユニットケアのタイプですと2百から3百くらいですかね。

戸村委員： 過去3年間で特養の施設というのはどのくらい増えているんですか。

介護保険課長： この3年で、150床増えました。

戸村委員： 特別養護老人ホームのベッド数なんですけど、今はユニット型でないと県の補助は下りないんですか？

事務局： 公募ですので、どうしてもユニットの方が評価されやすいですが、多床室が駄目というわけではないです。

戸村委員： これ見ると、認知症の方が非常に多いでしょ、希望者の中でも。そういう方はユニットに入れてもあまり意味は無いのではないですかね。多床型にして4人部屋とかにした方が、どんどん入れますし。

地域福祉支援課長： 国の方針としてユニットになっているんですけど、いま申し上げたように多床室が絶対に駄目という話ではないです。ただ、市川としてはプライバシーの問題も考慮しております。戸村委員： 。

地域福祉支援課長： 今度の計画の中で、2025年にこのくらいのサービス量があると、保険料いく

らですよという風に見積もるに当たって、どういう方針で建てるのかというのが、今回の計画の中で一番大切な部分で、さっきご指摘いただいた通りなんだろうなと思います。ですからその中で、個室が本当にみんないいんだということになれば、個室を建てるだけのコストが保険料にかかってくる。その辺りの選択は行政がするのか、どういう形で意思決定するのかというのが、この審議会の中でも皆様をお願いしなくてはいけない部分だと思います。

戸村委員： 行政でいいんじゃないですかね。だって年金で入りたい人がいっぱいいるんだもの。個室で高いお金を払ってもいいって人は民間に入ればいいわけで、行政がやるのは多床型で。

高田委員： 新しい特養のタイプが個室ということもあるけれども、個室の量だけではなくてユニットケアというサービスそのものも、これから議論していかなくてはならないのかという気がいたします。

藤野会長： 確かに、認知症になってくるとたくさんの方を覚えることができないので、小人数のケアが良いというような部分はあるんですね。ただ言われるように、金銭的なご負担の部分もありますので、それと福祉の財政的バランス、今後はその辺りも含めて考えていかなければいけないのかなという風に思いますね。

戸村委員： 特別なものは民間にやらしてもらえばいいわけでね、行政としては、多くの人を受け入れる。ユニットにすると、部屋数が増え、みる人だって大変でしょ？ 増やさないともきれないですからね。

高田委員： 多床室の場合のプライバシーというのは、非常に施設としても努力して進めていかななくてはいけないなとは思っていますけど、本人の意識の問題でどうかというと、周りがプライバシーがあるかどうかという見方になってくるので、そこは判断しがたいところもありますが、本人がどういう風に言った言わないに関わらず、周りが見てもプライバシーが確保されているな、というような環境はこれから、しっかり対応していかないといけないのかなと。

塚越委員： 初歩的な質問で申し訳ないのですが、特養に入るのに認知症以外の方は入れないのですか。要するに、要介護度の高い人も入るわけですよね。やっぱり、要介護度の高い人にはプライバシーも必要かなと思います。

藤野会長： 市川市の従来型の多床室とユニット型の割合は分かりますか。

事務局： 半々くらいですね。

藤野会長： それならば、身体的な理由がある方もいますし、両方ある人もいますので、家族の許可や本人の希望によって選べるというような選択で。全部が全部ユニットケアになっているわけではないので。

地域福祉支援課長： 全てを施設で賄うことは2025年を見据えると難しいと言われていきますので、例えばサービス付き高齢者住宅などの住まいの場所を考えると、地域の中でどう支えていくかというのが課題になると思います。認知症だけじゃなくて、特養に入る数が確保できるかどうかというのもまた難しい問題になるので。当然、病院の病床についても、今後、どこで亡くなるかということは真剣に話をしていかなければいけない時代になるんだろうなと。少なくとも、病院自体が賄えなくなるんじゃないかということを含めて最後どうするのかなというのが、施設もどうするかっていうこともありますけど、例えばグループホームをたくさんもつと作る必要があるとか、

そういう話もしていかななくてははいけない。

塚越委員： 市川市は学校を改造して老人の施設と併用するといった計画があったかと思うが、実現しているのでしょうか。

事務局： 今のところ、7中だけかと。国府台小学校もデイサービスと併用しています。

藤野会長： 合築しているんですか。

事務局： 空き教室を利用しています。

藤野会長： 教室を利用して、入り口を別に。住宅と特養の合築とか保育所と特養の合築とか、そういう色々な形のものではできているような気はしますね。

田上委員： プライバシーの話が出てきましたけどね、やはり人間としての尊厳なんですよ。意識の問題としては、認知症の方はほとんどないかもしれないけど、人間として、やはり尊厳を守ろうという、そういうことだと思うんですね。

藤野会長： 認知症の問題の難しいのは、どこまでがこうときれいに線引きができないことなので、権利擁護については考えていかななくてはと思います。

いかがですかね？ 結果については、これで全体を通して計画の中にとということ考えてよろしいんですかね。

事務局： 先ほどの割合につきましては、従来型多床室が 39.2%、従来型個室が 4.3%、ユニット型が 56.5%です。

藤野会長： もうユニット型が半分越えているんですね。恐らくですけど、生活レベル高いんじゃないんですか？ 市川、船橋。千葉だったら千葉の房総の下の方の人たちに比べたら、個室がある程度払える方は比較的ちょっと多いのかなと。プライバシーを守ってもらいたい人も多いかなという気がしますけど。

戸村委員： 千葉の下の方というのは、農村型ですよ。農村型の所というのはわりと核家族化していないんですね。都心になるとやっぱり核家族でみんな出て行ってしまっていて、近所との付き合いが。そういう中で、地域で見ると形というのは非常に難しいと思いますよ。

伊藤委員： ケアマネジャーの関わり具合と言うのは、この数字にはでてこない？ ある意味では100%かもしれないですよ。だいたいケアマネジャーはついているだろうから、ケアマネジャーのアドバイスを受けて申し込む、と考えていいんでしょうね。

高田委員： 入所申込書の中に、ケアマネジャーの記載欄があると思いますから、直接的ないし間接的には相談を受けて、申し込んでいるかと思います。

伊藤委員： 介護施設がいくつあって、一般の人たちがどこまでそれを理解しているかっていうのは疑問だと思うんですよ。適正かどうかっていうのは、非常に難しいかもしれませんが、その辺は施設の入所審査会ですか、そちらでチェックされていると考えていいんですか。

高田委員： そうですね。

藤野会長： では、こちらの方の入所希望者実態調査と市民意向調査の結果、それからこれまでの実施状況ですね、それらを合わせて、今後新しい計画をつくっていくということで、これらについてのご意見については今後、事務局の方に寄せていただきながら、次回の検討に入っていきたいと思います。

事務局： 次回、7月16日の社会福祉審議会で、こちらのアンケートの内容について報告をしたいと思います。その後、第二回目の高齢者福祉専門分科会をお願いしたいと思います。内容については骨子案という形で、大枠的な考え方を提示させていただきたいと思っております。

藤野会長： 以上を持ちまして、平成26年度第1回市川市高齢者福祉専門分科会を終了したいと思います。お疲れ様でした。